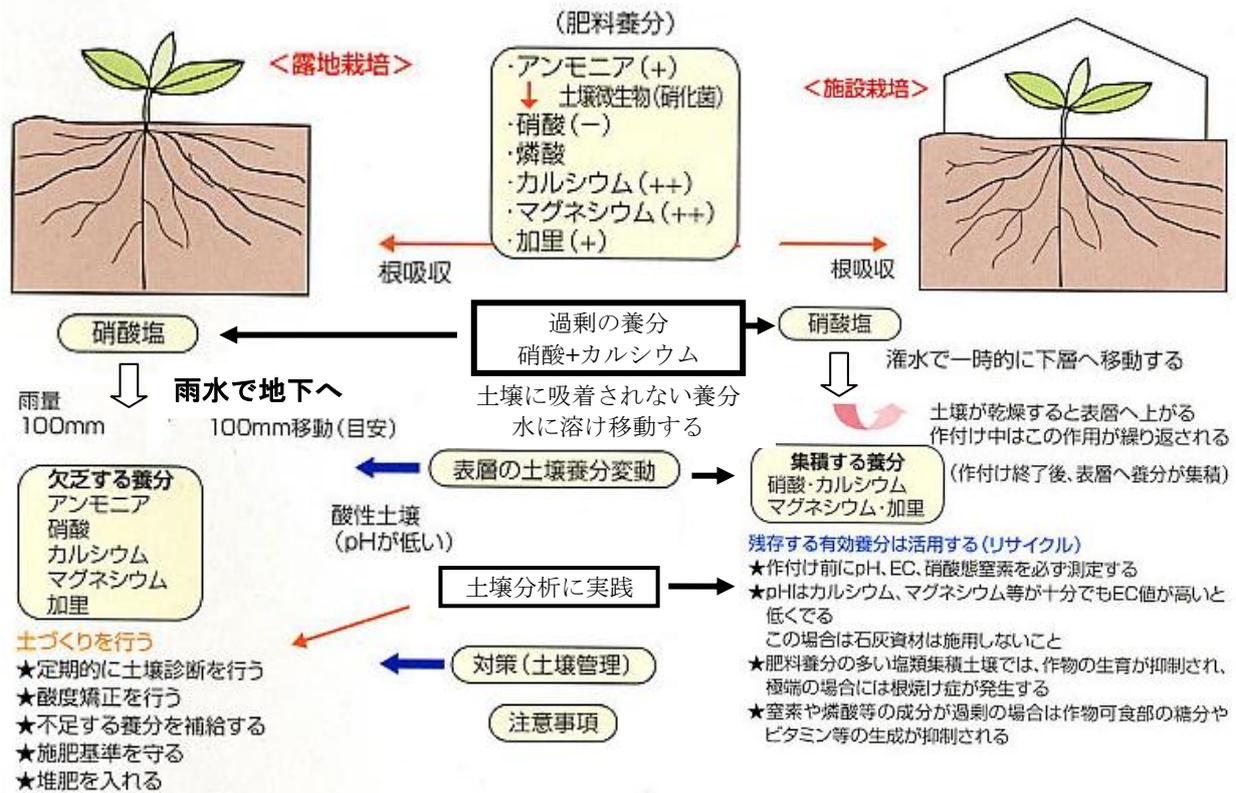


2.露地と施設の肥培管理の違い

1. 溶脱型と集積型

露地と施設の最大の違いは、前者は雨が土壤に当るので土壤養分は流れやすく、後者は雨が当たらないため常に土壤養分が一定の土層内に留まることである。このことから、露地は土壤養分の溶脱型であり、施設は養分集積型と言える。とくに、施設の野菜栽培は、生育を左右する窒素施肥の管理が重要である。具体的には、窒素施肥量と灌水量の管理が最も重要である。

露地・ハウス栽培の土壤養分動向と施肥管理



2. 肥料養分の過剰と野菜の反応

2-1. 葉根菜類

収穫物は主に栄養生長期に相当するので養分の欠乏は顕著に現れ、過剰は不鮮明の場合が多い。品質面から見て、施設栽培では窒素等の過剰施肥の対策が重要である。

2-2. 果菜類

収穫物の品質を高めるためには、窒素や加里のコントロールが特に重要である。例えば、高糖度トマトは適量の窒素と水分管理技術が基本となる。

2-3. 土壤分析の意義

従来、土壤診断は少ない養分を引き上げるための対策が重要視され、過剰に対しては緩い考え方があった。しかし、今後の施設栽培では、過剰に対する関心を高めることが重要である。土壤診断の実施は畑の肥料倉庫の棚卸という感覚を徹底する必要がある。

例えば、栽培前の土壤条件が「pHが低い・ECが高い、カルシウムが十分ある」場合には石灰資材は入れないよう注意が必要である。もし、この土壤に石灰資材を施用すると、土壤の塩類集積を促進し、根の障害も起きやすく、野菜の生育を不安定のものとし、ひいては土壤病害の発生を助長することになる。